

組体操で育つもの

近年、運動会の競技の1つである組体操に関して、色々な議論がなされています。

そのきっかけは、組体操の練習中の怪我にあり、世の中では『怪我をしたのだから無くしてしまおう』という意見も聞かれます。

怪我をした背景には、子ども達個々の体格や意欲に沿わずに、無理な配置での組み方をしたり、全員が必ずこの組み方をしなければならない。といった、子どもの気持ちに反したプログラム編成をしたり、運動会の時期になってから短期間での仕上げ練習といった事があります。

当法人でも5歳児年長組による組体操を行っており、毎年勇ましい姿を見せてくれています。

組体操のねらいは他の競技と一線を画しており、“友達と協力する事で力を出し切り、心身を鍛える” “きっちり揃えて行う” という所にあります。

入園からこれまで積み上げてきた体力や運動技能を使い、そのねらいを達成できるのは年長児ならではの事です。

アメリカ、スタンフォード大学での研究では、子どもは1人よりも複数の方が力を発揮できるという発表をされています。

組体操はまさにその集団力を生かした競技です。

子ども達が、これまでに培った力を、自信を持って体現するからこそ、見ている人の心を打つ感動が生まれます。

今年も各地で子ども達の勇ましい演技が見られると良いですね。